取扱説明書

audio-technica

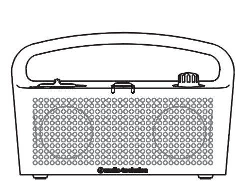
サウンドアシストワイヤレススピーカーシステム

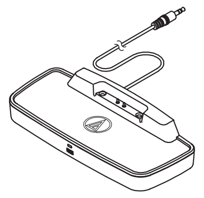
AT-SPH1000TV

お買い上げありがとうございます。
ご使用の前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。
また、保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

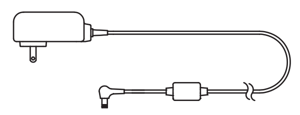
内容物を確認する

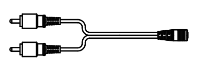
本製品をご使用になる前に、下記内容物がすべてそろっていることを確認してください。
万一、内容物に不足や損傷がある場合は、お買い上げの販売店または当社お客様相談窓口（16ページ）までご連絡ください。


●スピーカー（AT-SP767R）×1


●送信機（AT767TX）×1

●ヘッドホン（ATH-P100L）×1


●ACアダプター（AD-SL0615AO）×1


●専用変換コード（10cm）×1

●取扱説明書（本書）
●保証書
●かんたんマニュアル

安全上の注意

本製品は安全性に充分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。

⚠危険	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が切迫しています」を意味しています。
⚠警告	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。
⚠注意	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

スピーカー／送信機について

⚠ 警告

●心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以内の場所では使用しない
ペースメーカーが、本製品の電波の影響を受ける恐れがあります。
●本製品を医療機器の近くで使用しない
電波が心臓ペースメーカーや医療用電気機器に影響を与える恐れがあります。
医療機関の屋内では使用しないでください。
●指定の AC アダプター以外は使用しない
事故や火災の原因になります。
●異常(音、煙、臭いや発熱、損傷など)に気付いたら使用しない
異常に気付いたら、すぐに使用を中止して、お買い上げの販売店か当社のサービスセンターに連絡してください。
そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
●分解や改造はしない
感電、故障や火災の原因になります。
証明ラベルの貼り付けられた製品を総務省の許可無しに分解・改造、または証明ラベルをはがして使用することはできません。これに違反すると法律により罰せられます。
●強い衝撃を与えない
感電、故障や火災の原因になります。
●濡れた手で触れない
感電やけがの原因になります。
●水をかけない
感電、故障や火災の原因になります。
●本製品に異物（燃えやすい物、金属、液体など）を入れない
感電、故障や火災の原因になります。
●布で覆わない
過熱による火災やけがの原因になります。
●同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない
事故や火災の原因になります。

⚠ 注意

●不安定な場所に設置しない
転倒などによりけがや故障の原因になります。
●直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない
故障、不具合の原因になります。
●火気に近付けない
変形、故障の原因になります。
●ベンジン、シンナー、接点復活保護液などは使用しない
変形、故障の原因になります。

ヘッドホンについて

⚠ 警告

●自動車、バイク、自転車など、乗り物の運転中は絶対に使用しないでください。
●周囲の音が聞こえないと危険な場所（踏切、駅のホーム、工事現場、車や自転車の通る道など）では使用しないでください。

⚠ 注意

●耳をあまり刺激しない適度な音量でご使用ください。大音量で長時間聞くと聴力に悪影響を与えることがあります。
●肌に異常を感じた場合は、すぐにご使用を中止してください。
●分解や改造はしないでください。

AC アダプターについて

⚠ 警告

●AC100V 以外の電源には使用しない
過熱による火災など事故の原因になります。
●本製品以外には使用しない
過熱による火災など事故の原因になります。
●異常(音、煙、臭いや発熱、損傷など)に気付いたら使用しない
異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店か当社のサービスセンターに連絡してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
●コードは伸ばして使用する。釘などでの固定や、束ねたままでの使用はしない
過熱による火災など事故の原因になります。
●コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む
過熱による火災など事故の原因になります。
●コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする
断線、故障の原因になります。
●コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない
断線、故障の原因になります。
●分解や改造はしない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
●強い衝撃を与えない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
●濡れた手で触れない
感電によるけがの恐れがあります。
●布などで覆わない
過熱による火災など事故の原因になります。
●プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る
過熱による火災など事故の原因になります。
●ベンジン、シンナー、接点復活剤など薬品は使用しない
変形、故障の原因になります。

⚠ 注意

●長時間使用しないときは、コンセントから抜く
省エネルギーにご配慮ください。
●足に引っ掛かりやすい場所にコードを引き回さない
故障や事故の原因になります。
●通電中のACアダプターに長時間触れない
低温やけどの原因になることがあります。

充電式電池について

⚠ 危険

●電池の液が漏れたときは素手で液を触らない
・液が本製品の内部に残ると故障の原因になります。電池が液漏れを起こした場合は、弊社サービスセンターまでご相談ください。
・万が一なめた場合はすぐに水道水などのきれいな水で充分にうがいをし、医師の診察を受けてください。
・皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。皮膚に違和感がある場合は医師の診察を受けてください。
●電池の液が目に入ったときは目をこすらない
すぐに水道水などのきれいな水で充分に洗い、医師の診察を受けてください。

充電式電池について (つづき)

⚠ 警告

●火の中に入れない、加熱、分解、改造しない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
●釘を刺したりハンマーで叩いたり踏みつけたりしない
発熱、破損、発火の原因になります。
●幼児の手の届く所に置かない
電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
窒息や内臓への障害の恐れがあります。
●長期間使用しない場合は電池を取り出す
液漏れによる故障の原因になります。

⚠ 注意

●落下させたり強い衝撃を与えない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
●以下の場所で使用、放置、保管しない
・直射日光の当たる場所、高温多湿の場所
・炎天下の車内
・ストーブなどの熱源の近く
液漏れ、発熱、破裂、性能低下の原因になります。
●水に濡らさない
発熱、破裂、発火の原因になります。
●付属の充電器、AC アダプター以外で充電しない
故障や火災の原因になります。
●外装ラベルがはがれた電池は使用しない、ラベルをはがさない
ショート状態になり液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
●変形させたりハンダ付けしない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
●機器を使用したあとは必ずスイッチを切る
液漏れの多くは、スイッチの切り忘れによる電池の消耗が原因です。
●使用済みの電池は自治体の所定の方法で処分する
環境保全に配慮してください。

■充電式電池のリサイクルについて

Ni-MH

充電式電池はリサイクルできます。不要になった電池は、端子（金属部分）にテープなどを貼り付けて絶縁してから充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。
充電式電池の回収･リサイクルおよびリサイクル協力店については、
社団法人電池工業会ホームページ http://www.baj.or.jp をご覧ください。

使用上の注意

スピーカー／送信機について

●ご使用の際は、接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
●AC アダプターのプラグの抜き差しは、電源を切ってから行ってください。
●本製品の近くに本製品と同じ 2.4GHz 帯の電波を使用する *Bluetooth* 搭載機器や、無線 LAN・Wi-Fi を使用する機器、デジタルコードレス電話、電子レンジなどがあると、電波の影響によって音声が途切れることがあります。同様に、本製品の電波がこれらの機器に影響を与える可能性があるため、干渉しあう機器同士は離して設置してください。
●汚れたときは電源プラグを抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

充電について

●初めて使用する際は、必ず満充電を行ってください。
●初めて充電するときや長時間使用していないときは、電池の持続時間が短くなることがあります。その際は、何回か充放電を繰り返すと通常の充電ができるようになります。
●長期間使用しないときでも、電池を保護するため、半年に1度は充電を行うようにしてください。放置しすぎると電池の持続時間が短くなったり、充電しなくなる恐れがあります。
●電池を使い切らないうちに充電を繰り返すと、充電状態とは無関係に電池が消耗するメモリー効果と呼ばれる現象が起きます。その場合、1度電池を使い切ってから充電してください。
それでも電池の消耗が早い場合は、電池の寿命が考えられます。充電式電池の交換については、販売店または当社サービスセンター (16 ページ) へお問い合わせください。
●本製品を充電する際は、直射日光を避け、風通しの良い場所 **(10 ～ 35℃)** で充電してください。電池の劣化を招き、連続使用時間が短くなる、または充電ができなくなります。

ワイヤレス機器について

本製品は 2.4GHz 帯の周波数帯域を使用します。この周波数帯域を使用するほかの機器との電波干渉を避けるために、下記事項をお読みのうえ、ご使用ください。

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの家庭用電気機器・IT・産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局 (免許が必要)、特定小電力無線局 (免許が不要)、およびアマチュア無線局 (免許が必要) が運用されています。

1. ご使用の前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、およびアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 本製品の使用により、万一、移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合には、速やかに送信機の電源を切ってください。そのうえでお客様相談窓口（16 ページ）にご連絡いただき、混信回避のための処置（例えばパーティションの設置など）についてご相談ください。
3. そのほか、移動体識別用の特定小電力無線局またはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合や、ご不明な点がございましたら、当社お客様相談窓口（16 ページ）までお問い合わせください。

●本製品は日本の電波法に適合し、認証を取得しています。そのほかの国での使用はできません。
●本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として技術基準適合証明を受けております。無線局の免許は必要ありません。
●本製品は日本の電波法の技術基準に適合しています。貼り付けられているラベルはその証明ラベルです。証明ラベルの貼り付けられた製品を総務省の許可無しに分解・改造、または証明ラベルをはがして使用することはできません。これに違反すると法律により罰せられます。
●本体の表示について

2.4XX8 この無線機が 2.4GHz 帯を使用し、変調方式はその他の方式、与干渉距離が 80m 以内、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能を表します。

ワイヤレス機器について (つづき)

●使用可能範囲
送信機から約 30m の範囲でご使用いただけますが、送信機とスピーカーの間に障害物がある場合や建物の構造などによっては使用可能な距離が短くなる場合があります。
●ほかの機器との影響
本製品の近くに本製品と同じ 2.4GHz 帯の電波を使用する *Bluetooth* 搭載機器や、無線 LAN・Wi-Fi を使用する機器、デジタルコードレス電話、電子レンジなどがあると、電波の影響によって音声が途切れることがあります。同様に、本製品の電波がこれらの機器に影響を与える可能性があるため、干渉しあう機器同士は離して設置してください。

防滴性能について

スピーカー本体は防滴仕様（保護等級 IPX2*相当）です。
防水仕様ではないため水をかけたり、水に浸けると故障の原因になります。
送信機、付属の AC アダプター、ヘッドホンは防滴仕様ではありません。
また、スピーカーのヘッドホン端子のキャップが完全に閉まっていないと本体内部に水が入り、故障や電池の液漏れ、発熱の原因となります。

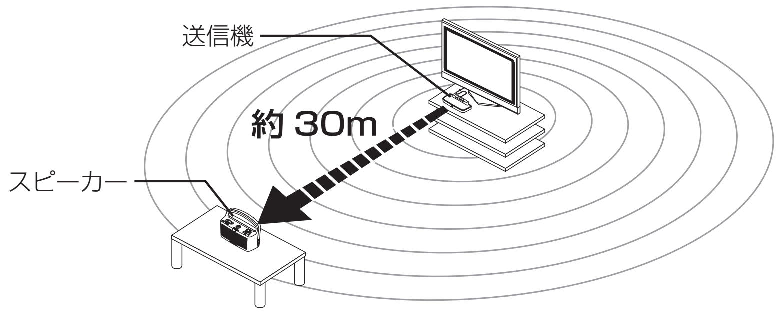
*JIS/IEC 保護等級。IPX2 相当とは、取っ手側から 15 度以内で傾斜させて鉛直に落下する水滴に対して本体機能を保持するものです。
*お風呂など高温多湿の場所では使用できません。

ヘッドホンについて

●接続する際は、必ず機器の音量を最小にしてください。
●本製品はオープンバック型のため、音が漏れる構造になっております。
交通機関や公共の場所では、ほかの人の迷惑にならないよう、音量にご注意ください。
●乾燥した場所では耳にピリピリと刺激を感じることがあります。これは人体や接続した機器に蓄積された静電気によるものでヘッドホンの故障ではありません。
●強い衝撃を与えないでください。
●直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かないでください。また水がかからないようにしてください。
●本製品は長い間使用すると、紫外線（特に直射日光）や摩擦により変色することがあります。
●コードは必ずプラグを持って抜き差ししてください。コードを引っ張ると断線や事故の原因になります。
●コードをラックや家具などに巻き付けたり、挟んだりしないでください。

デジタルワイヤレススピーカーシステムについて

本製品は送信機に接続した機器の音声をスピーカーへ無線伝送します。
到達可能な距離は、送信機から約 30m*です。

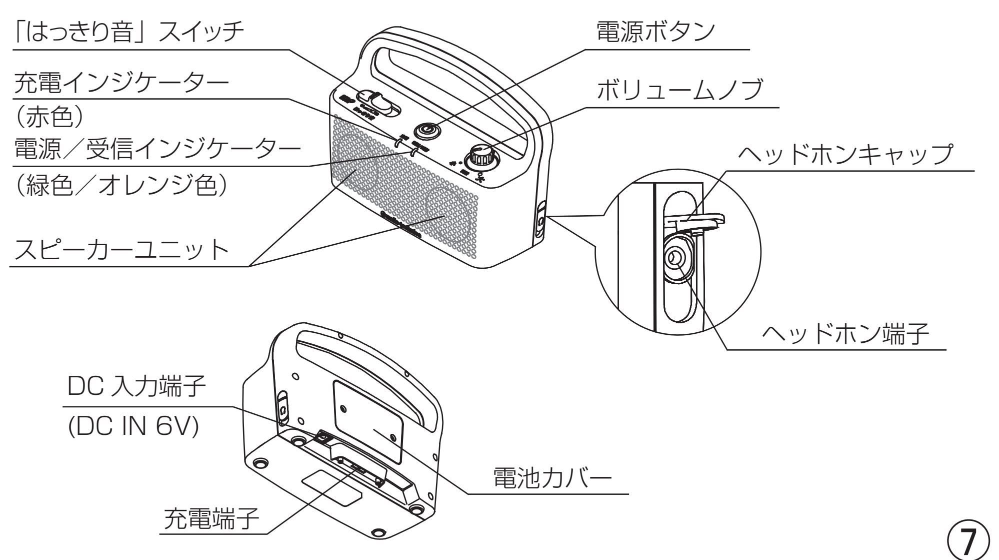


*電波の到達距離は、スピーカーと送信機の周囲の建物の構造などによって変化します。
スピーカーと送信機の間に電波を遮るもの（金属の扉など）があると、到達距離が短くなります。

到達可能な範囲を超えた場合や、スピーカーと送信機の間に電波を遮るものがある場合はスピーカーの「電源／受信インジケーター」が点滅します。
30m以内でご使用ください。
*送信機の電源切換スイッチが「切」、またはオートスタンバイモードになった場合、スピーカーが到達可能な範囲にあっても「電源／受信インジケーター」が点滅します。

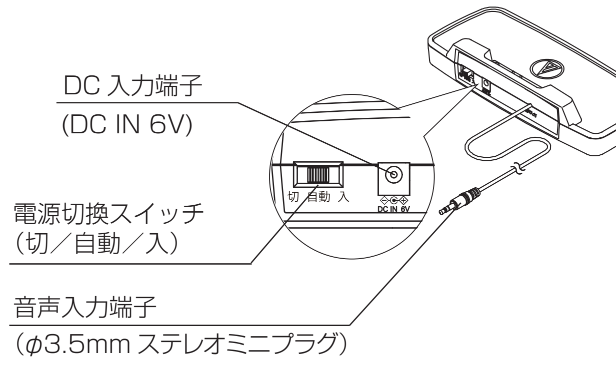
各部の名称

スピーカー　AT-SP767R

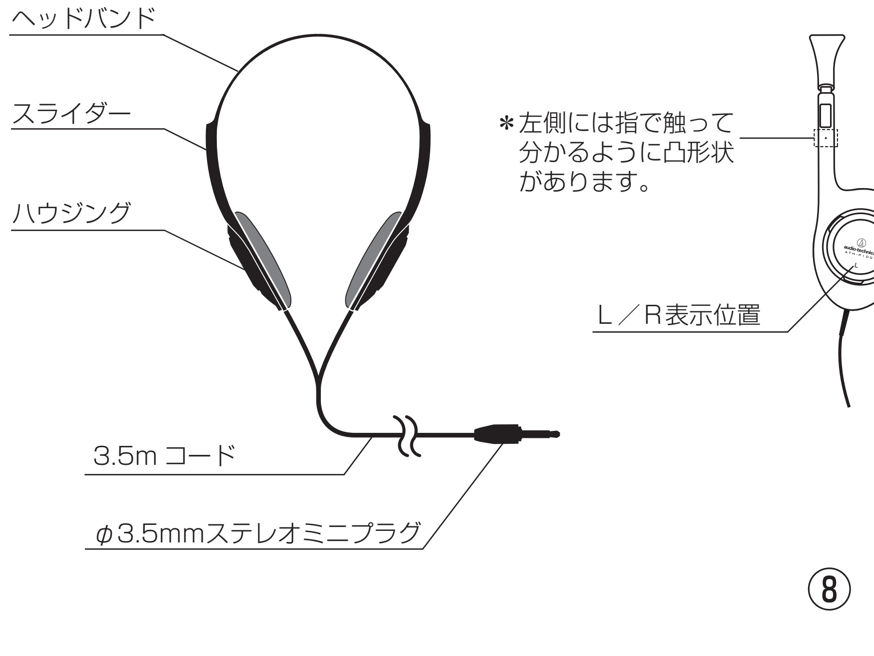


各部の名称(つづき)

送信機　AT767TX

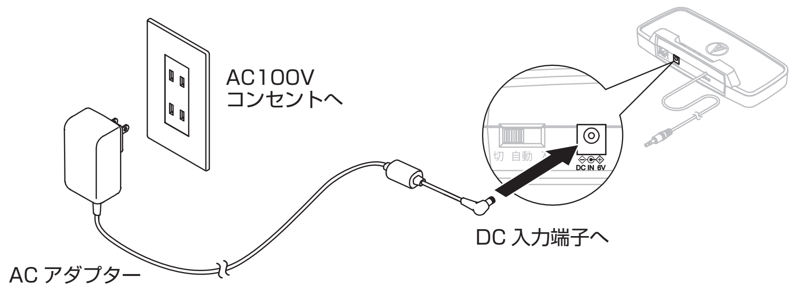


ヘッドホン　ATH-P100L



送信機を準備する

送信機の電源切換スイッチが「切」になっていることをご確認ください。
送信機と付属の AC アダプターを接続します。



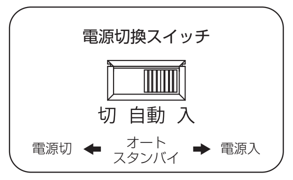
スピーカーを準備する

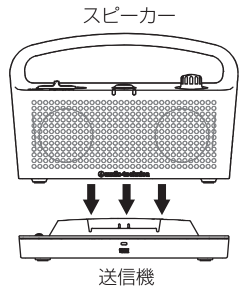
スピーカーの電源が切れていることをご確認ください。

充電のしかた

送信機の電源切換スイッチを「自動」または「入」にします。
「送信機の電源切換を設定する」(11 ページ) も併せてご確認ください。

1. スピーカーを送信機の上に置きます。
2. 充電インジケーターが赤色に点灯し、充電を開始します。
3. 充電インジケーターが消灯すると充電完了**（約 5 ～ 6 時間）**です。





＊約 5 ～ 6 時間とはスピーカーの電源が切れているとき、充電完了にするための目安の時間です。
スピーカーの電源が入ったままの状態だと充電完了までの時間が長くなります。
＊送信機の電源切換スイッチが「切」の状態では充電できません。
＊電池残量が少なくなるとスピーカーの電源／受信インジケーターが緑色⇒オレンジ色⇒消灯に変わります。

●長期間使用しないときでも、電池を保護するため、半年に 1 度は充電を行うようにしてください。放置しすぎると電池の持続時間が短くなったり、充電しなくなる恐れがあります。
●電池を使い切らないうちに充電を繰り返すと、充電状態とは無関係に電池が消耗するメモリー効果と呼ばれる現象が起きます。その場合、1 度電池を使い切ってから充電してください。
それでも電池の消耗が早い場合は、電池の寿命が考えられます。充電式電池の交換については、販売店または当社サービスセンター (16 ページ) へお問い合わせください。
●本製品を充電する際は、直射日光を避け、風通しの良い場所 **(10～35℃)** で充電してください。電池の劣化を招き、連続使用時間が短くなる、または充電ができなくなります。

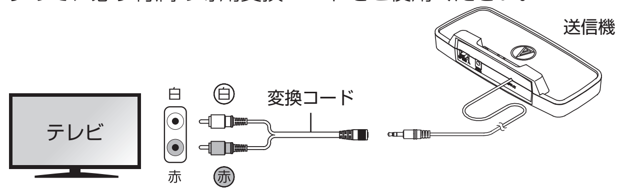
テレビとの接続のしかた

テレビとの接続には使用したい場面にあわせて、以下の2種類の方法があります。
＊接続するテレビの取扱説明書も併せてお読みください。

①スピーカーとテレビの両方から音声を出したい

テレビの音声出力端子に接続します。

付属の専用変換コードを送信機のコードに接続し、プラグ (白 赤) をテレビの音声出力端子（テレビによっては「モニター出力」「入力／音声出力」など）に接続します。
＊付属の専用変換コードは抵抗入りです。市販の抵抗なしの変換コードを使用すると大きな音が出ますので、必ず付属の専用変換コードをご使用ください。



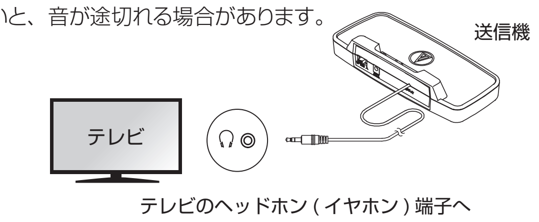
テレビの音声出力端子へ

●テレビの音量を変えてもスピーカーの音量は変わりません。
●テレビ側の「音声出力設定」を変更しないと音声が出力されない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご確認ください。
●お持ちのテレビに音声出力端子がない場合は②の方法で接続してご使用ください。
●一部のテレビでは、HDMI 入力端子がほかの機器と接続されていると、①の接続方法では本製品の音声が出ない場合があります。その際は、②の接続方法でご使用ください。

②テレビの音は消してスピーカーだけ音声を出したい

テレビのヘッドホン (イヤホン) 端子に接続します。

送信機のコードのプラグをテレビのヘッドホン (イヤホン) 端子に接続します。
＊テレビの音量を音が歪まない範囲で、できるだけ大きくしてください。
テレビの音量が小さいと、音が途切れる場合があります。



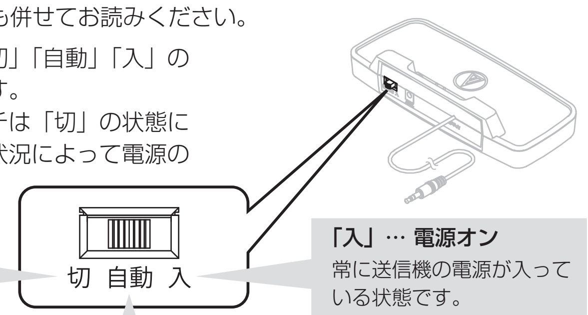
テレビのヘッドホン (イヤホン) 端子へ

●「スピーカー出力切換」など、テレビ側の音声をON／OFFできるテレビでは、スピーカーとテレビの両方から音声を出すこともできます。詳しくはテレビの取扱説明書をご確認ください。
●モノラルテレビに接続した場合は、左側のスピーカーのみ音声が出ます。両方のスピーカーから音声を出したい場合は別売の『モノラルーステレオ変換アダプター』をお買い求めください。

送信機の電源切換を設定する

使用する前に送信機の準備、テレビとの接続を確認してください。
＊接続するテレビの取扱説明書も併せてお読みください。

送信機の電源切換スイッチは「切」「自動」「入」の 3 段階の切り換えになっています。
お買い上げ時の電源切換スイッチは「切」の状態にセットされていますので、使用状況によって電源の切り換えを行ってください。



「切」… 電源オフ
常に送信機の電源が切れている状態です。

「入」… 電源オン
常に送信機の電源が入っている状態です。

「自動」… オートスタンバイ
テレビの音声信号が入ると自動的に送信機が電波の送信を始めます。
また、**約 10 分間音声信号がない、もしくはテレビの音量が小さい状態が続くと、自動的に送信機が電波の送信を停止します。スピーカーの電源もその 1 分後に自動的に切れます。**
再び音声信号が入ると、自動的に送信機が電波の送信を始めます。（スピーカーの電源は自動では入りません。）「自動電源オフ」機能をご使用の際は「自動」にしてください。

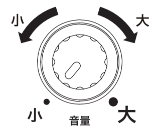
スピーカーの使いかた

スピーカーの電源が切れていることを確認し、テレビの電源を入れます。

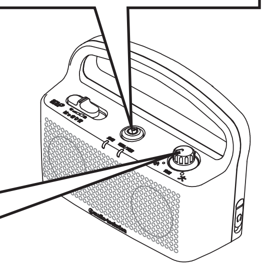
スピーカーの電源を入／切する
電源ボタンを押して電源を入れてください。
使い終わったら、電源ボタンを押して電源を切ってください。
電源／受信インジケーターも消灯します。

電源が入ると緑色に光ります。

音量を調整する
スピーカーのボリュームノブで音量を調整してください。



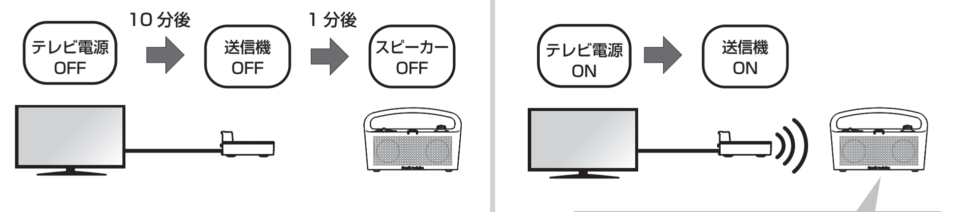
ノブを右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。
※音が歪んだ場合は、テレビのボリュームも下げてください。



●スピーカーのボリュームは音が歪まない範囲でご使用ください。
●テレビのボリュームが小さいと、オートスタンバイ機能が働いてスピーカーから音が出なくなる場合があります。その場合は送信機の電源切換スイッチを「入」に設定するか、テレビのボリュームを上げてください。
●テレビによっては音声出力端子を「固定／可変」に設定できるものがあります。テレビの音声出力端子が「固定」に設定されている場合はテレビのボリュームを調整できませんので、「可変」に設定し音が歪まない範囲に調整してください。

スピーカーの使いかた（つづき）

「自動電源オフ」機能



送信機の電源切換スイッチが「自動」の場合、**約 10 分間音声信号がない、もしくはテレビの音量が小さい状態が続くと自動的に送信機が電波の送信を停止します。**停止状態では電源インジケーターは緑色からオレンジ色に変わります。
送信機が停止状態になってから約1分後にスピーカーの電源も切れ、* 電源／受信インジケーターが消灯します。
＊送信機の電源切換スイッチが「入」の場合は、スピーカーの「自動電源オフ」機能は働きません。

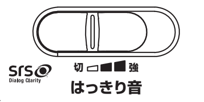
スピーカーの電源は自動では入りません。

左記の待機状態で、テレビからの音声信号が入ると自動的に送信機が電波の送信を始めます。
スピーカーの電源が切れている場合は、スピーカー電源ボタンを押して電源を入れてください。

●送信機の電源切換スイッチを「自動」の状態にしている場合は、テレビの音量を歪まない範囲でできる限り大きくしておいてください。テレビの音量が小さいと、テレビの電源が入っていても、「自動電源オフ」機能が働いてしまう場合があります。

「はっきり音」機能

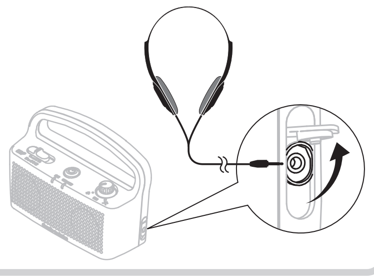
「はっきり音」スイッチを入れると、音声や台詞を明瞭に聞くことができます。
2 段階切り替えで効き具合を調整できます。
＊「はっきり音」の効果には個人差があります。
＊「はっきり音」は DTS Inc. が開発した SRS Dialog Clarity™ 技術を採用しています。
SRS Dialog Clarity™は、人の声の領域の周波数を強調することにより、オーディオやサウンド再生音の中で台詞を明瞭に聞くことができます。



●「はっきり音」スイッチを入れるとボリュームによっては音が歪むことがあります。その場合、テレビのボリューム、またはスピーカーのボリュームを調整し、音が歪まない範囲でご使用ください。

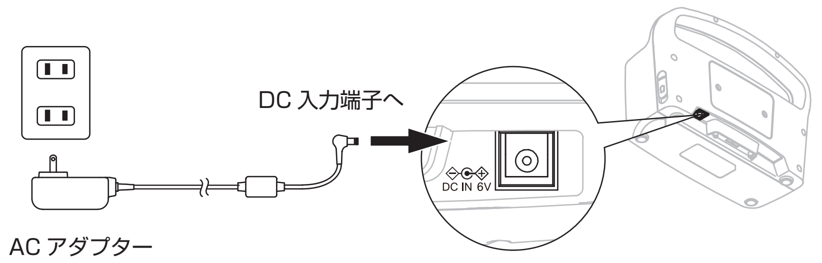
ヘッドホン端子

スピーカーのヘッドホン端子に、付属の ATH-P100L や、お持ちのヘッドホンを接続すると、テレビの音声をヘッドホンで聞くことができます。
スピーカーのボリュームノブで音量を調整してください。
＊ ヘッドホンを接続した場合、スピーカーからは音声が出力されません。



ACアダプター(別売)でスピーカーを使用する場合

別売のスピーカー用 AC アダプター (AD-SL0615AO) を使用して、電池残量を気にすることなくスピーカーを使用することができます。
＊お買い求めいただく際は販売店、または当社サービスセンター (16 ページ) にお問い合わせください。
スピーカー底面にある DC 入力端子と AC アダプターを接続してください。



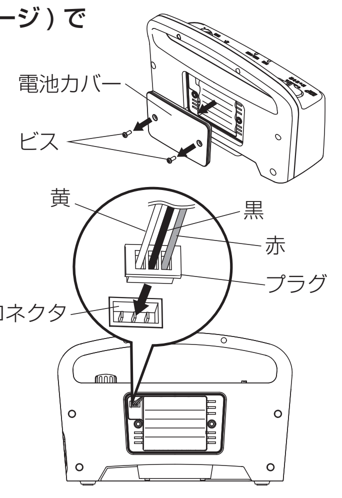
AC アダプターを接続すると、充電インジケーターが赤色に点灯し、充電を開始します。
充電をしながらでも、スピーカーを使用することができます。
充電インジケーターが消灯すると充電完了**（約 5 ～ 6 時間）**です。
そのままスピーカーを使用しても、電池を消耗せず使用することができます。
＊約 5 ～ 6 時間とはスピーカーの電源が切れているとき、 充電完了にするための目安の時間です。
＊AC アダプターを接続したままでも、過充電にはなりません。

充電式電池の交換について

充電しても電池の消耗が早くなった場合は、電池の寿命が考えられます。
充電式電池は、販売店または当社サービスセンター (16 ページ) でご注文いただけます。

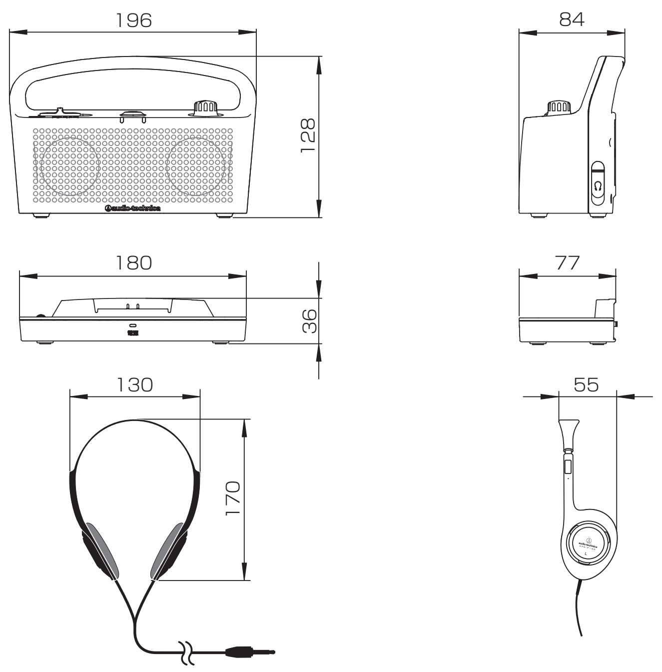
＊別売のスピーカー用 AC アダプター (AD-SL0615AO) を使用している場合は、必ず AC アダプターを抜いてから作業してください。

1. お手持ちのプラスドライバーでスピーカー背面にあるビスを 2 本取り外し、電池カバーを外してください。
＊ビスを無くさないように注意してください。
2. スピーカーから電池を外し、プラグをコネクタから引き抜いてください。
3. 新しい電池のプラグをコネクタにしっかりと差し込み、電池ケースに入れてください。
4. 電池カバーを取り付けて、ビスを閉めてください。
＊コードを電池カバーで挟み込まないように注意してください。



●万一、本製品の操作ができなくなってしまった場合には、電池のプラグを抜き挿しすることで復帰します。

外形寸法 (単位 :mm)



故障かな?と思ったら

症状	ご確認ください	対処方法
電源が入らない	電池が消耗していませんか?	電池を充電してください。(9 ページ)
	電池の寿命が考えられます。	電池を交換してください。(5、9、13 ページ)
音が出ない	スピーカー、送信機の電源が入っていますか?	電源を入れてください。(11 ページ)
	スピーカーの電源／受信インジケーターが消えていませんか?	充電してください。(9 ページ)
	送信機とテレビが正しく接続されていますか?	送信機とテレビの接続を確認してください。(10 ページ)
	テレビの電源が入っていますか?	電源を入れてください。
	テレビのボリュームを下げすぎていませんか?	テレビのボリュームを上げてください。(11 ページ)
	スピーカーにヘッドホンを接続していませんか?	ヘッドホンを外してください。(12 ページ)

故障かな?と思ったら（つづき）

症状	ご確認ください	対処方法
音が出ない	送信機をモノラルの機器に接続していませんか?（片側からしか音が出ない）	右側のスピーカーからは音声が出ません。(10 ページ)
	テレビの「入力／音声出力」に接続していませんか?	テレビの設定を音声出力にしてください。テレビの取扱説明書をご確認ください。(10 ページ)
音が歪む	テレビのボリュームを上げ過ぎていませんか?	テレビのボリュームを調整し、音が歪まない範囲でご使用ください。(11 ページ)
	スピーカーのボリュームを上げ過ぎていませんか?	スピーカーのボリュームを調整し、音が歪まない範囲でご使用ください。(11 ページ)
	テレビの音声出力端子の設定が「固定」になっていませんか?	「可変」に設定し、テレビのボリュームを歪まない範囲まで下げてください。(11 ページ)
	市販の抵抗なし変換コードを使用していませんか?	付属の専用変換コードを使用してください。(10 ページ)
音が途切れる	スピーカーの電源／受信インジケーターが点滅していませんか？	到達可能な範囲でご使用ください。(7 ページ)
	テレビのボリュームを下げすぎていませんか?	テレビのヘッドホン (イヤホン) 端子に接続されている場合は、テレビの音量を音が歪まない範囲でできるだけ大きくしてください。(10 ページ)
	周囲に 2.4GHz 帯の電波を使用する機器がありませんか？	電波が干渉しています。2.4GHz 帯の電波を使用する機器から、できるだけ距離を離して設置してください。(5、6 ページ)
	プラグが接続した端子から外れていませんか？	確実に接続してください。(10 ページ)
ノイズが入る	周囲に 2.4GHz 帯の電波を使用する機器がありませんか？	電波が干渉しています。2.4GHz 帯の電波を使用する機器から、できるだけ距離を離して設置してください。(5､6 ページ)
充電ができない	送信機の電源切換スイッチが「切」になっていませんか?	電源切換スイッチを「入」または「自動」にしてください。(9 ページ)
	電池の寿命が考えられます。	電池を交換してください。(13 ページ)
	高温、低温の環境で充電していませんか?	直射日光を避け、風通しの良い場所 (10 ～ 35℃) で充電してください。(5、9 ページ)
	長時間使用しない期間がありましたか?	電池を保護するため、半年に 1 度は充電を行うようにしてください。(5、9 ページ)

これでも症状が良くならない場合は ▶ お買い上げの販売店、または当社のお客様相談窓口へお問い合わせください (16 ページ)

テクニカルデータ

● **スピーカー　AT-SP767R**

型式	：アンプ内蔵スピーカーシステム
スピーカーユニット	：φ52mm×2
最大出力	：1.1W＋1.1W（充電式電池を使用）／ 1.2W＋1.2W（別売の AC アダプターを使用）
出力端子	：φ3.5mm ステレオミニジャック
電源	：専用ニッケル水素電池 / DC6V(別売の AC アダプターを使用)
連続使用時間	：約 15 時間　＊使用条件により異なります。
外形寸法	：H128×W196×D84mm
質量	：約 620ｇ

● **送信機　AT767TX**

変調方式	：その他の方式
送信周波数帯	：2.4GHz 帯
到達距離	：約 30m
入力端子	：φ3.5mm ステレオミニプラグ (1.5m)
電源	：DC6V(付属の AC アダプターを使用)
外形寸法	：H36×W180×D77mm
質量	：約 150ｇ

● **ヘッドホン　ATH-P100L**

型式	：ダイナミック型
ドライバー	：φ30mm
出力音圧レベル	：93dB/mW
再生周波数帯域	：20～20,000Hz
最大入力	：100mW
インピーダンス	：32Ω
プラグ	：φ3.5mm 金メッキステレオミニプラグ
コード長	：3.5m
外形寸法	：H170×W130×D55mm
質量	：約 60g（コード、プラグ含まず）

● **付属品**

専用変換コード	：RCA ピンプラグ ×2⇔φ3.5mmステレオミニジャック (10cm)
送信機専用 AC アダプター	：AD-SL0615AO

● **別売**

スピーカー専用 AC アダプター	：AD-SL0615AO
交換イヤパッド	：HP-P100

(改良などのため予告なく変更することがあります。)

DTS 特許については、http://patents.dts.com を参照してください。
SRS Dialog Clarity 技術は DTS ライセンシング株式会社から許可を得て製品化されました。
DTS、シンボル、および DTS とシンボルはともに DTS Inc. の登録商標です。
©DTS Inc. All rights reserved.

お問い合わせ先（電話受付 / 平日9：00～17：30）
製品の仕様・使いかたや修理・部品のご相談は、販売店または当社窓口およびホームページのサポートまでお願いします。
●お客様相談窓口（製品の仕様・使いかた）　0120-773-417
（携帯電話・PHSなどのご利用は　03-6746-0211）
FAX：042-739-9120　Eメール：support@audio-technica.co.jp
●サービスセンター（修理・部品）　0120-887-416
（携帯電話・PHSなどのご利用は　03-6746-0212）
FAX：042-739-9120　Eメール：servicecenter@audio-technica.co.jp
●ホームページ（サポート）
www.audio-technica.co.jp/atj/support/

修理について
本製品の修理をご依頼される際は、スピーカーと送信機の両方をお預けください。
本製品の製造打切後は代替部品（本製品の基本性能を維持するために必要な部品（補修用性能部品）にて部品交換等の修理を行う場合があります。その場合、色目、仕様が異なる場合もございますがご容赦願います。

アフターサービスについて
本製品をご家庭用として、取扱説明や接続・注意書きに従ったご使用において故障した場合、保証書記載の期間・規定により無料修理をさせていただきます。修理ができない製品の場合は、交換させていただきます。お買い上げの際の領収書またはレシートなどは、保証開始日の確認のために保証書と共に大切に保管し、修理などの際は提示をお願いします。

株式会社オーディオテクニカ
〒194-8666　東京都町田市西成瀬2-46-1
http://www.audio-technica.co.jp　　232900770